

日本体育大学同窓会誌

vol.  
14

# 日體人

横浜・健志台キャンパス 新5号館



2025 NITTAI-JIN

# 一歩ずつ 前進

日本体育大学同窓会  
会長 高田 佳朗



はじめに

会員の皆様には、平素より本会の活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。また、法人、母校、そして、保護者会の皆様方には、日ごろ同窓会の活動を温かく見守っていただき、心より感謝いたしております。加えて、本誌発刊にあたり、松浪健四郎理事長、今村裕常務理事、石井隆憲学長にご寄稿を賜り、厚く御礼を申し上げます。

令和7年度も、スポーツ界において本学同窓生が大いに活躍し、日本中に勇気と元気を与えてくれました。大相撲では、昨年5月に初優勝を果たした大の里関(令和5年3月卒)が、その後大関そして横綱とスピード昇進し、その活躍は全国の同窓の皆さんを大いに喜ばせてくれました。また、創部100周年を迎える陸上競技部からは、公益財団法人日本陸上競技連盟の会長に有森裕子氏が就任されました。このように多くの同窓生がさまざまな場面で活躍してくれています。皆さんのさらなる飛躍を心からお祈りしております。

さて、日本体育大学同窓会は「親睦」「研鑽」「母校発展への寄与」を目的として設立され、法人・大学、保護者をはじめ関係の皆様のご理解・ご協力の下で、その足跡を刻んでまいりました。母校日本体育大学は、「身体に纏わる文化と科学の総合大学」を目指して5学部体制へと発展を遂げ、今なお進化し続けています。一方、体育学部の卒業生を軸に組織化されてきた本会は、会員の高齢化、総会等参加者の固定化、新入会員の減少、職業の多様化など多くの課題に直面しています。

そうした大学生や卒業生を取り巻く環境変化が加速する中で、瀧澤康二元会長、塩谷和雄前会長から会長職を引き継ぎ3年目が過ぎようとしております。この間の振り返りを含め、今後の同窓会としての歩む道を記したいと思っております。

## これまでの取り組みについて

### 1 プロジェクトの進捗状況について

#### ① 県人会再構築プロジェクト

いくつかの府県において、大学の教職員に協力をいただき県人会の再構築に向けた取り組みを行っております。今後は、大学の教職員の皆さんの協力拡大を図って学生との関係構築に努めていきたいと考えております。

#### ② 民間・企業人とのつながりと学生への就職支援プロジェクト

全国の企業人でLINEグループを作成し、現在約90名の同窓とつながっております。また、令和8年3月には、学生だけでなく卒業生も対象とした同窓による企業説明会を実施します。今後は、地区企業人会の発足に向け、可能なところから進めていきたいと考えております。

#### ③ ホームページの有効活用プロジェクト

これまでなかなかご覧いただけなかったホームページについて、新たな業者に変更し使いやすいためにいたしました。このホームページからリアルタイムでの情報発信や同窓会オリジナルグッズの販売も行っております。

#### ④ 同窓会オリジナルグッズの製作と販売プロジェクト

なかなか進まなかったオリジナルグッズの製作と販売ですが、ようやく開始することができました。同窓会のHPよりご注文いただけるようになっておりますので、大いにご活用ください。今後は、より皆さんに喜んでいただけるようなグッズを作りたいと思っておりますので、ご期待ください。

## 2 各支部への支援

### (1) 研修事業の充実を目指した補助金の増額

これまで年に1回ずつ計2回となっていた同窓会研修会事業を年4回までとし、補助金を支給させていただきました。

就職対策をはじめそれぞれの支部での研究事業が、より充実したものとなるよう願っております。

### (2) 卒業生への連絡費用補助

大学を卒業した同窓生に対し、各支部からの連絡用の費用を補助させていただきました。

卒業生との連絡が少しでも取れるよう期待しております。

## 新たな取り組みについて

### 1 新たな学生支援

#### (1) 地域教員養成型選抜入試支援金の創設

令和8年度より新たに実施される「地域教員養成型推薦入試」での合格者への支援金制度を創設します。

#### (2) 新規教員採用者へのお祝い金制度の創設

令和8年度から、新年度に公立及び私立学校の正規教諭として着任し、支部に登録している同窓生に対し、お祝い金を支給する制度を創設します。

### 2 同窓会活動の活性化に向けた支援

#### (1) 支部運営費補助金制度の創設

各支部の運営補助として、新年度の入学者数を基準に補助金を支給する制度を新たに創設します。

#### (2) 同窓会への登録システム開発の推進

全国にいる同窓の方々の中には、どのようにすれば同窓会に加入できるのかを知らずにいる方がいらっしやいます。そうした方々や3月に卒業する学生の皆さんに向けて登録が簡単にできるようなシステム開発を進めます。

#### (3) 各地区企業人組織の構築

近年一般企業への就職が増加する中、各地区での企業人の組織作りが急務となっております。早急に各地区における組織の構築に努めてまいります。

今後とも、本同窓会及び母校日本体育大学の発展のために、誠心誠意取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、この会誌「日體人」につきましては、ペーパーレス化や郵送費の増額等の影響からデジタル化してまいります。つきましては、本誌発行協力金にご協力いただいた方と準会員の皆様へは引き続きお送りいたしますが、それ以外の方々にはホームページ上でご覧いただくこととなります。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

# 巻頭言

学校法人日本体育大学  
理事長 松浪 健四郎



## はじめに

異常な気候の年が続いておりますが、今年も新春を迎えることができました。「新年あけましておめでとうございます」。日体大は創立135年、世界最大の体育大学、アジア最古の体育大学として君臨できますのも、すべての関係者の皆様のおかげであります。

少子化の波によって大学・高校等の経営が厳しくなってきました。このサバイバルウォーに、いかに勝つか、様々な戦略が求められています。まず、オンリーワンの学校をいかにして作るか、そのアイデアを提供して下さいますようお願い申し上げます。

今年は、学校法人日本体育大学に奉職するすべての教職員がいかなる知恵を出し、行動するかにかかっています。全員が一丸となって、学生・生徒等の募集のために働く年にしたいと決意しております。魅力的な学校づくり、どんなことでも全教職員がその気になれば、必ずできると確信しております。

## 感謝する

先人の努力があって、現在の学校法人日本体育大学が存在します。明治の中頃から、政府は「富国強兵」政策によって本法人と学校を重視し、半ば国立の扱いを享受しました。トップに閑院宮殿下を推戴（すいたい）した理由は、政府にすれば国家の存亡に影響を与えかねない学校と解していたからに他なりません。

その伝統と歴史は、日体大のハード・ソフト両面の随所に遺っていますが、もしかすれば、現場にいる私たち自身が忘却の彼方（かなた）にあります。誇りを取り戻し、先人たちに感謝し、それに恥じることのない品格を備えて行動せねばなりません。品性・品格は、最大の魅力です。

## 貢献する

昨年のお阪での大阪・関西万博、大変な盛況でした。4月には日体大の世に知られた「集団行動」が、経済産業省の要請で披露されました。9月にはスポーツ庁の委託研究で行われた、伊藤雅充教授の途上国からのパラアスリートによるトレーニングの様子のビデオが外務省からの応援で公開されました。万博でも日体大が存在感を示すことができ、社会貢献に一役買うこととなりました。

私たちは、学校周辺のみならず、いたるところで迷惑をかけています。そのため、たとえ小さくともどんな貢献ができるかを考えねばなりません。その積み重ねが、つまるところ「名門」を造ることにつながります。

## 愛情を注ぐ

家族を大切に、愛情を注ぐのは当たり前です。眼前にいる学生・生徒等にも、私たちは飛び切りの愛情を注ぐ必要があります。それが教育であり、人づくりです。怒ることをやめ、工夫してやる気を起こさせることです。長所を発見して褒めるようにしましょう。

行動は人格の表現でもあります。家庭環境はもちろんのこと、学校においても愛情あふれる環境であれば、心のあたたかい人材が育ちます。心の教育は、教師や職員一人だけの仕事ではありません。

## まとめ

進学先を決定する決め手は、学校の雰囲気にあるといわれます。いわゆるムードです。全員でそのムードを奏する努力を期待します。感謝、貢献、愛情、この3本柱の年にしていただけますようお願いして巻頭言とします。

# 日体大グループの 近況と未来に向けて

学校法人日本体育大学  
常務理事 今村 裕



同窓会の皆様、日頃より温かいご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私立大学は今、厳しい経営環境の下、日々変化する社会情勢をにらみながら、様々な課題への対応が求められております。少子化や地方格差などの従前からの問題に対する方策のみならず、未来に向けた大学運営や教育内容を再考していく状況にあります。

そんな中、ここ数年、学校法人日本体育大学が取り組んできたプロジェクトをご報告させていただきます。

一つ目は、学部の定員の増員です。2024年からスポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科において入学定員を100名増員し、入学定員は1,870名となり、大規模大学に迫る規模にまで成長しました。設置高校4校の生徒募集戦略と合わせ法人全体の学生募集に繋げる対策を講じ、現在に至っております。少子化の中、本大学の規模で設置校が4校あるというところが大きな強みとなっております。今後も、法人全体の経営状況を鑑み、より効果的な設置校間の定員移動や定員増を検討し、さらなる発展を続けて参ります。

二つ目は、大学の附属機関としてクリニックを開設したことです。過去コロナ禍において大学法人としては最も早期にワクチン接種を実現することができました。また、能登半島地震発生直後から日本医科大学と協力し、本学所有の救急車を利用して現地での救助救命に尽力しました。さらに、整形外科に特化したAR-Ex Medical Groupと連携し、より高度な医療体制を構築し、学生や地域の方々への貢献を続けております。

三つ目は、横浜・健志台キャンパスの再開発整備事業でございます。老朽化した教室棟や図書館の整備、バリアフリー化等を進め、学生の学習環境の向上とともに、地域社会に開かれたキャンパスへと進化いたしました。特に、新5号館は横浜・健志台キャンパスの新たなランドマークとして、7階建ての近代的な外装となっており、図書館、学生食堂、美術品ミュージアムを設えるキャンパスの中心的な学舎となっております。また、本事業を進めるにあたり、多くの同窓生や関係者様より多大なご支援やご寄付を賜りましたことに感謝申し上げます。

そして、最後に自治体連携協定推進事業であります。今や86の地方自治体と「体育スポーツの振興に関する協定」を締結しております。学校法人日本体育大学と全国の地方自治体が、それぞれの有する教育資源等を有効かつ適切に活用することにより、「体育・スポーツ・健康づくり」の各分野における一層の発展と更なる社会貢献をはかるとともに、将来の受験生である小中学生を大学に引き、トップアスリートと交流することにより少子化に向けた学生・生徒募集に結びつける戦略を取っております。また、部活動の地域移行に伴う指導者育成についても、積極的に学内資源を提供し、多くの自治体や社会のために寄与すべく歩みを進めております。

これからも全国の同窓生の皆様と連携を深め、魅力的な大学、誇れる大学にして参りたいと思っております。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げ、同窓会、日体大グループ全体が共に連携し、さらに進展していくことを期待しております。同窓会のますますのご発展を心より祈念しご挨拶とさせていただきます。

# 同窓会の活性化に向けて 期待すること

日本体育大学  
学長 石井 隆憲



日頃、同窓会の皆様におかれましては、母校、日本体育大学へのさまざまなご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。教職員を代表いたしまして御礼申し上げます。

さて、今回は同窓会から標題のテーマをいただきました。私も学長に就任してからの数年間、同窓会の地区協議会へ出席する機会をいただきましたが、その中で大学が現在抱えている少子化の問題とは対照的に、同窓会は組織の高齢化が進んでいることを知りました。私も同窓生の一人ではありますが、いまだ同窓会組織の詳細については全くわかっておりませんので、これまで私が見聞き、経験してきたことを基にして、以下に私が専門とするスポーツを対象とした社会人類学的な知見を織り込みながら同窓会の活性化に期待することを述べさせていただきます。

すでに、これまで地区協議会で何度もお話してきましたように、我が国の18歳人口は10年後の2035年には100万人を下回り、その後、人口はさらなる減少が加速化します。現在でも大学や短大の募集停止は始まっていますが、10年後を迎えるあたりから、これまでの大学の形態は大きく変化をしなければならない時期を迎えるかもしれません。

このように先行きが不透明な中で、大学にとって強力なステークホルダーとなるのが同窓会組織です。私は大学と同窓会は車輪の両輪のような関係にあると考えています。常に両組織は停滞することなく廻っていくことで、協同して活動を展開することができるように、お互いに大いなる刺激を与え続けることができるからです。

同窓会の役割は、大きく二つ存在していると思います。一つは、会員である同窓生が集う有益な共同体であること。もう一つが母校となる日体大への協力です。組織構造上、同窓会は毎年卒業する卒業生が組織構成員の予備軍となるわけですが、最終的に同窓会の会員として加入する人数は極端に少なく、これが一番

の問題だと聞いています。そのため同窓会組織は日本の人口ピラミッドと同じように平均年齢が高い集団を形成しているようです。大学はこの十数年の間に拡大していることから、卒業生は毎年増加しています。それにも関わらず同窓会活動に足を運ぶ卒業生が少ないのには、それなりの理由があるはずで、地区協議会で私が耳にする話は、「教員の数の減少によって、同窓会活動に参加する人が減った」とか、「一般企業への就職者が多くなったことで、仕事が忙しく、同窓会に出席できない状況がある」、また「同窓会はこれまで教員を主体とする組織なので一般企業へ務めた同窓生は活動に参加しにくい」といったようなものです。

確かに、これらの指摘は重要であると思います。しかし、他大学で同窓会活動が展開されているのを見ると、必ずしも教員養成大学であることや一般企業への就職が少ない大学であることが同窓会活動の非活性化を引き起こしているわけではありません。同窓会の歴史の中で、本学はその会員の多くが教員であったわけですが、いまや卒業生の就職先を見ると一般企業への就職は6割を超えています。そうした現状を鑑みますと同窓会組織の根本的な構造改革が迫られているのだろうと考えられます。

同窓会も一つの社会組織であるわけですから、社会組織の目的の達成とともに、ここに籍を置くメンバーの一人一人にも幸福がもたらされなければなりません。昭和の時代ならまだしも、コスパ、タイパと言われる現代社会においては、心意気だけで活動を継続していくには、あまりにもハードルが高すぎるからです。

所属する集団やステータスが変わるといことは、人生の節目、節目で起こります。そこには「通過儀礼」が伴います。通過儀礼では、それまで留まっていた集団から分離し、移行（古いものから新しいものへと過渡）して、次の集団へと統合するという経過を取ります。これはすべての通過儀礼に見られる構造です。現状においては、卒業するとすぐに同窓会へ入会という

運びになりますが、卒業と同窓会の間に移行期間の状態を置いて、同窓会の正式な会員となる以前の段階を作ることがあってもよいのかもしれませんが。同窓会を支えていくネクスト・ジェネレーションとか、カミング・ジェネレーションといった段階です。主にこうした集団に対しては、同窓会員になっていくための教育と、その一方で大学生に最も近い卒業生としての役割を担ってもらうこと、という二つの相異なる立場を持たせると良いのではないかと思います。同窓会からの教育は大学時代から始める必要はあると思いますし、ここでのネットワーク作りが最も重要なことになるはずで、そして卒業生としての自覚と責任を持たせるために、例えば、大学は年に何度かホームカミングデーなどを実施したり、現役学生との間でセミナーを行ってもらったりと、大学生と社会をつなぐためのエージェントとしての役割を果たしてもらうことで、大学の発展に寄与しているという肯定感を持ってもらいます。その延長上に同窓会が存在しており、数年の後、この組織へ移行します。もしかするとこれはエリート同窓会会員を作ることであって、全ての会員予備軍が対象ではないかもしれませんが、そこはスマートフォン・アプリを使って常に情報発信がされ、少なくともネット上でのつながりは持続させていくなどの工夫は必要であると思われる。

年齢という視点から同窓会組織を見ますと、日体大を卒業した者という条件以外、年齢的な制限を受けることはありません。つまり、同窓会のメンバーの年齢の広がり、孫の代までの世代が一つの組織の中で活動しているということになります。これは社会そのものでもあるわけですが、こうした社会を機能的に稼働させていくためのシステムは人類史の中で大きな役割を果たしてきました。最もポピュラーなのが年齢階梯制です。簡単に言うと集団の中で年代ごとに役割や機能が決まっていて、それが階層化しているという

ものです。私が大学生であった頃の剣道部には（剣道部に限りませんが）学年ごとに役割（立場？）が明確化されていましたし、学年階層ごとにステータスが異なっていました。そのようなイメージです。この役割分担を組織の中に反映させることは（現在の同窓会でも緩やかに行われていることはわかっています）必要なことではないかと思えます。

しかし、これだけでは組織はうまく稼働しません。組織のメンバーであることが、自分自身にとって何らかのメリットになっていると自覚でき、やりがいを見出してもらうことにより活動を継続させます。例えば、同窓会活動をすることで、今いる職場では出会うことのない職種の同窓生とつながるような特別なネットワークが形成されるとか、知ることができなかった経験や体験を通して、自分自身が成長を感じることができる。あるいは新しい技術やスキルが身に付いたり、自分自身の力が仕事とは別に社会に貢献していると感じるとか、自分たちのアイデアや提案などで母校の発展に寄与するなど、やりがいがあるとともに自己実現の場であると自覚できる組織であることが望ましいのだと思います。同窓会がすべての同窓生にとって生き甲斐を与える組織となることを期待しています。

以上、あまりにも当たり前の話になってしまいましたが、私自身が期待するものは、大学改革と同様に、同窓会組織が今の社会状況に合った組織へと今以上に再編されることです。同窓会組織が強靱であることは、間違いなく大学そのものを支えていく大きな柱の一つになります。

今後もさまざまな形で大学は同窓会とともに歩み続けていきます。両組織がより良い方向へと向かうことができるように、お互いに知恵を出し続けたいと思います。



対談企画

- 生涯を通じてつながる絆 -

# 「日体大剣友会の今とこれから」



日本体育大学同窓会

日本体育大学剣友会(剣道部OB会)

会長 **高田 佳朗**

会長 **軽米 良臣**

## 現在の活動状況について

高田：本日はお忙しい中ありがとうございます。剣友会の活動について伺えるのを楽しみにしていました。私は現在、全国高体連の事務局次長を務めています。

軽米：そうですね。全国高体連の奈良専務理事とは長い付き合いで、以前は彼が部長、私が副部長という関係でした。今も相談役として一緒に仕事をしています。剣道界は人のつながりが深く、世代を超えて関係が続くのが特徴ですね。

高田：まさにスポーツ人同士のつながりですね。ところで、剣友会の会員はどのくらいいらっしゃるのでしょうか。

軽米：卒業生は約2千600名、そのうち会費を納めているのが900名ほどです。昔は教員としてつながる人が多かったのですが、今は警察官や実業団など多様な進路を取る卒業生が増え、地元の剣友会と接点を持ちにくくなっています。

高田：同窓会としても今後は卒業時にQRコードを通じて情報を登録し、出身地や部活名を入力してもらおうような仕組みを作りたいと思っています。

軽米：それは良いアイデアですね。高田：同窓会でも同様の課題を抱えています。かつては教員ネットワークが中心でしたが、今は企業人や公務員が6割。新たな形のつながりを模索しているところです。

## 剣友会の活動とOBの絆

高田：剣友会ではどんな活動をされているのでしょうか。

軽米：大きな柱は大会運営です。「山之内旗・倉沢杯争奪全国高等学校剣道大会」と志沢旗争奪全国中学校剣道大会」という二つの全国大会を主催しています。今年は東京武道館で開催しました。以前は健志台で行っていましたが、改修工事の影響で東京に会場を移しました。OBが審判や運営を担い、現役学生も補助として関わります。剣を通して世代が交わる貴重な場です。

高田：日体大の剣道ネットワークの強さを感じますね。

軽米：5月の京都大会やインターハイの際にもOB会を開いています。毎年50〜60人ほど集まり、稽古や懇親会を通じて交流しています。剣道は「生涯武道」と呼ばれるように、卒業しても続ける人が多いんです。現役を離れても稽古場や大会で顔を合わせる、それが自然にネットワークを支えています。

## 減りゆく剣道人口と

### 次世代への継承

高田：最近では剣道人口の減少も話題ですね。

軽米：昭和59年ごろには全国で9万5千人ほどいた高校生の剣道部員が、今は3万1千人ほど。特に女子が減っています。中学校の部活動が地域

素晴らしいです。

軽米：ありがとうございます。日体大剣友会には全国に支部があり、各地で大会や稽古会を支えています。どこへ行っても剣友がいる。それが日体大剣道部の財産です。剣道を通じて社会に貢献し、次の世代へバトンをつなぐこと。それが私たちの使命だと思います。

高田：本当にその通りですね。日体大の精神が、剣を通して全国に息づいていることを改めて感じました。本日は貴重なお話をありがとうございました。軽米：こちらこそ、ありがとうございます。今回の対談をきっかけに、現役学生や若いOBが「剣友会の輪」に関心をもち、また剣を通じて集ってくれた

## 軽米 良臣

(かるこめ よしおみ)

体育学部 武道学科 昭和53年卒  
学生時代は剣道部主将を務める。  
現在は(公財)全日本剣道連盟評議員  
(公財)全国高体連剣道専門部相談役  
(一財)千葉県剣道連盟副会長兼専務理事

ら嬉しいんです。剣道を続けることが、人と人、地域と地域を結ぶ力になると信じています。



移行する流れもあり、今後さらに減少が進む恐れがあります。それでも剣道は一度身につけたら生涯続けられる競技です。社会人になっても再開する人が多く、そうした人たちが再び剣友会に戻ってきてくれたらと思います。

高田：確かに剣道家の方々は姿勢も体幹も素晴らしい。健康寿命の面から見ても意義深いですね。

軽米：そうですね。ただ、私自身は今や腰も肩も痛い(笑)。でも剣道は今や「てなんぼ」。過去の実績ではなく、今竹刀を握っているかどうか。若い人たちに交じて40分、50分の稽古をするのは正直大変ですが、それでもやめられません。打たれても打っても、そこに学びがあるんです。

高田：まさに「生涯剣道」の精神ですね。

## 剣友会の未来に向けて

高田：こうした時代の変化の中で、剣友会として今後どんな方向を目指されますか。

軽米：やはり「生涯剣道」を軸にした組織づくりです。卒業しても仲間と剣を通じてつながり続けられる場を維持したい。結婚や子育て、仕事で一時離れても、また戻って来られる場所にしたいたいと思います。最近ではオンラインで理事会を開くなど、若い世代が関わりやすい環境づくりも進めています。

高田：伝統を守りつつ改革する姿勢が



# 事業報告

## ■ 全国規模研修会等

### 日本体育大学入学式

- ◆ 令和7年4月3日(木)  
場所:東京・世田谷キャンパス  
高田会長ほか本部役員が出席

### 全国代表者会議(代議員会)

- ◆ 令和7年5月31日(土)6月1日(日)  
場所:東京・世田谷キャンパス
- 1日目(午後)
  - ・石井隆憲 学長挨拶
  - ・入学試験について
  - ・卒業生進路状況について
  - ・松浪健四郎 理事長挨拶
  - ・法人竹原 企画部長挨拶
  - ・NITTAICLUB 地域スポーツ指導者養成事業及びNITTAICLUB 地域スポーツ指導者コーディネーター養成について
  - ・学長招待懇親会
- 2日目(午前)
  - ・令和6年度事業及び決算報告
  - ・令和7年度事業計画、予算審議
  - ・令和6年度表彰受賞
  - ・各地区打合せ

### 臨時全国代表者会議(代議員会)

- ◆ 令和7年11月 書面開催  
・新たな入学者選抜における学生支援について  
・都道府県支部への運営費補助について  
・ホームページの改修費について(報告事項)

### 合同企業説明会(令和9年度卒業予定者/既卒者向け)

- ◆ 令和8年3月7日(土)  
場所:東京・世田谷キャンパス

### 日本体育大学卒業式

- ◆ 令和8年3月15日(日)  
場所:東京・世田谷キャンパス  
高田会長ほか本部役員が出席

## ■ 役員会

### 第1回

- ◆ 令和7年5月17日(土)  
場所:東京・世田谷キャンパス  
・令和6年度 事業・決算報告  
・令和7年度 事業計画(案)、予算(案)  
・令和6年度 日本体育大学同窓会表彰(案)

### 第2回

- ◆ 令和7年9月23日(火)  
オンライン開催  
・新たな入学者選抜における学生支援について  
・支部(都道府県)運営費補助について  
・ホームページ改修費について(報告事項)

## ■ 同窓力士激励会

### 大相撲七月場所(名古屋)

- ◆ 令和7年7月5日(土)  
場所:名城大学

### 大相撲十一月場所(九州)

- ◆ 令和7年11月3日(月・祝)  
場所:ソラリア西鉄ホテル福岡

### 大相撲三月場所(大阪)

- ◆ 令和8年2月28日(土)  
場所:シティプラザ大阪



## ■ 地区協議会

7ブロックにおいて、地区協議会を開催いたしました。地区協議会とは、47都道府県を七つのブロックに分け、各地区で協議会を年1回開催し、活動の活性化や情報交換、親睦を深めるため開催しています。

日時	開催地区	開催都市	会場名
・令和7年6月14日(土)	九州	大分県 大分市	レンブラントホテル大分
・令和7年7月12日(土)	中国・四国	鳥取県 米子市	米子ワシントンホテルプラザ
・令和7年9月13日(土)	北海道	旭川市	旭川トーヨーホテル
・令和7年9月20日(土)	関東	栃木県 宇都宮市	ホテルニューイタヤ
・令和7年10月25日(土)	東北	岩手県 盛岡市	ホテルニューカリーナ
・令和7年11月8日(土)	近畿	大阪府 大阪市	大阪キャッスルホテル
・令和7年11月15日(土)	北信越・東海	愛知県 名古屋市	HOTELプラ王山



## ■ 女子同窓の集い

### 関東女子同窓の集い(東京都)

- ◆ 令和7年5月25日(日)

### 九州女子同窓の集い(沖縄県)

- ◆ 令和8年2月14日(土)



# 令和7年度 支部活動

全国47都道府県に50支部あり、各支部において、総会や研修会を実施しております。活動の一部ではありますが、ご活用いただきたく、ご紹介いたします。

地区名	事業名	実施日時	実施場所	目的	事業の内容(概要)	地区名
北海道	2025年度 北海道同窓会道央支部会議教育実習特別講師打合せ会議による研修	4月19日(土)	札幌市:ホテルライフオート札幌	大学・同窓会の現状を理解し、同窓会運営並びに学生支援に役立てる	道央支部会議にて報告・審議(事業 / 決算 / 予算、役員等)、教育実習特別講師打合わせ	北海道
埼玉県	就職対策研修事業(上半期)	4月26日・5月11日・6月7日・6月28日ほか(上半期6回)	さいたま市:さいたま市立大宮図書館	現役学生に対する就職対策・支援を行う	教員採用試験対策講座:情報提供・講義、面接(個人 / 集団)練習、小論文添削、演習・質疑	埼玉県
兵庫県	(卒業生対象)就職対策(教員採用試験対策)研修事業	4月27日(日)	神戸市:兵庫県立文化体育館	卒業生を対象に教員採用試験対策を行う	一次試験対策(学習指導要領・専門(保健体育)) / 集団・個人面接の要点整理と模擬面接指導	兵庫県
兵庫県	(在学生対象)就職対策(教員採用試験対策)研修事業	4月27日(日)	神戸市:兵庫県立文化体育館	教員採用試験合格に向けての学修	一次試験対策(学習指導要領 / 保健体育)、集団面接対策、個人面接対策(要点整理・模擬面接)	兵庫県
沖縄県	就職対策研修事業	5月19日～11月21日(各教育実習期間)	沖縄水産高校・那覇西高校・南風原高校・北部農林高校・南風原中学校・大宜味中学校	学生の就職活動支援(その他含む)	教育実習巡回指導と併せ、教員採用 / 一般企業 / 公務員試験の情報提供、激励・相談等	沖縄県
和歌山県	令和7年度 都道府県研修事業	5月24日(土)	上富田町:上富田スポーツセンター	和歌山県同窓会の定期総会並びに会員相互の資質向上と親睦のための研修	研修会「上富田スポーツセンターの取組」(講師:瀬越正敬氏)、総会(会務・会計報告、計画・予算等)、懇親会	和歌山県
秋田県	令和7年度 就職対策事業「学生・保護者研修会」	①5月31日(土) ②6月7日(土)	①秋田市:イヤタカ ②大館市:プラザ杉の子	保護者・学生に就職活動(秋田県教員採用試験を核)の現況理解を促し、進路目標に取り組む機会とし、秋田で教員を目指す学生育成につなげる	保護者向け説明(採用現況・卒業生進路)、県内企業(同窓生)紹介、教育実習生・保護者の質疑応答 / 相談	秋田県
静岡県	就職対策研修事業	6月14日(土)	浜松市:浜松市立積志中学校	静岡県教員採用試験(特別支援学校)2次試験対策	教員採用2次試験対策講座(個人面接:質問予測と練習、集団面接:テーマ予測と練習)	静岡県
奈良県	就職対策研修事業	6月21日(土)	五條市:五條中学校	教育実習生を対象に、副会長(在職校長)・役員・企業代表により教員採用試験対策を行う	採用試験指導、合格者アドバイス、面接対策(言葉遣い・態度)、質疑応答・相談	奈良県
新潟県	令和8年度 新潟県公立学校教員採用選考検査受験対策研修会	①6月28日(土) ②8月16日(土)	①新潟市:新潟北高校 ②新潟市:新潟柳都中学校	新潟県公立学校教員採用選考検査の受験対策研修を実施し、受験者の資質向上を図るため	1次・2次試験対策(教職・専門、実技、面接指導、模擬面接等)	新潟県
群馬県	群馬県保護者会の総会時における就職対策研修事業	6月29日(日)	前橋市:前橋商工会議所 ローズ	県内で教員を志望する学生の保護者に、採用試験の現況を周知し就職支援をするため	挨拶 / 講演(教員採用試験の準備) / 質疑応答	群馬県
秋田県	令和7年度 秋田県同窓会研修事業	6月7日(土)	大館市:ルネッサンスガーデンプラザ杉の子	秋田県同窓会・保護者会の連携強化、研修と親睦・在学生支援、近年の大学発展と入学制度理解	女性部会、代議員総会、研修会講演「発展し続ける日本体育大学(近年の入学制度について)」、祝賀会・懇親会	秋田県
愛媛県	就職対策事業	6月8日(日)	松山市:ANAクラウンプラザホテル松山	愛媛県教員採用試験の対策について	面接の心構え・実践、学習指導要領に沿った講義(教育実習生向け)	愛媛県
愛媛県	過年度生就職対策事業	6月8日(日)	松山市:ANAクラウンプラザホテル松山	愛媛県教員採用試験について	愛媛県教員採用試験対策研修(面接の心構え・方法、学習指導要領等の講義、資料配布・説明)	愛媛県
青森県	令和7年度 日本体育大学青森県同窓会総会及び会員研修会	7月19日(土)	青森市:アラスカ会館	母校発展支援・協力のため情報共有と現状・課題理解、同窓会活性化・発展に寄与	総会後に会員研修会を実施。講師(福井元氏)による大学の現状・取組・課題等の講演	青森県
静岡県	就職対策研修事業	7月19日(土)	浜松市:浜松日体中高等学校	浜松市教員採用試験(特別支援学校)2次試験対策	面接練習(個別面接の傾向予想・練習)及び模擬授業練習(テーマ予測、授業構想、板書、ICT等)	静岡県
宮崎県	令和7年度 日本体育大学宮崎県同窓会総会・研修会	7月19日(土)	日南市:ホテルシーズン日南	同窓生の連携・親睦と情報交換、在学生就職援助及び母校発展のための援助活動	総会(報告・審議)と研修会(古城隆利野球部監督講演、同窓会現況報告等)	宮崎県
長崎県	令和7年度 日本体育大学長崎県同窓会総会・研修会	7月5日(土)	諫早市:ホテルフラッグス諫早	会員相互の親睦を深めるとともに、研修会で大学の現状や学生の状況を知り見識を深める	総会(事業 / 会計報告、役員、計画・予算等)と研修会講演「進化する日本体育大学」(講師:吉田惣治)	長崎県
長崎県	令和7年度 日本体育大学長崎県在校生保護者向け就職対策事業研修会	7月5日(土)	諫早市:ホテルフラッグス諫早	令和7年度長崎県教員採用試験の現状	挨拶 / 長崎県教員採用試験説明 / 保護者会総会 / 大学の進路状況・進路指導説明 / 懇親会等	長崎県
高知県	高知県同窓会の発展と体育界の振興に寄与する研修会	7月5日(土)	高知市:高知会館	母校の発展と体育界の振興に寄与し、会員相互の親睦を図る	講演形式の研修会(講師:清岡幸太郎氏、題「夢に向かって(高知から世界へ)」)	高知県
新潟県	令和7年度 新潟県同窓会 会員研修会	7月6日(日)	新潟市:新潟東映ホテル	新潟県同窓会会員の親睦を深め、資質向上を図るため	アルビレックス新潟レディース選手による座談会(トークショー形式:振り返り、きっかけ、大学時代、新潟の魅力、今季への思い等)	新潟県
群馬県	教員採用試験の報告会及び就職対策研修事業	7月6日(日)	前橋市:ベースボールパークファースト	県内で教員を志望する学生に具体的な考え方や取り組みを紹介し就職支援をするため	挨拶 / 自己紹介 / 今年度採用試験の課題共有と協議 / 講評	群馬県
福岡県	福岡県合同研修会	10月25日(土)	福岡市:福岡リーセントホテル	同窓生意識の高揚と絆の深化による母校発展・福岡県同窓会活性化、体育・スポーツ普及発展に寄与	講演(大海二郎氏) 演題「集団行動指導を通じた学生の学びと成長の姿」、情報交換	福岡県
広島県	(在学生対象)令和7年度 日本体育大学広島県同窓会「就職対策研修会」	10月27日(月)	横浜市:日本体育大学 横浜・健志台	広島県での就職希望学生を対象に説明会を行い、就職・採用活動を支援し資質向上を図る	開講式 / 講演(広島県教員採用試験) / 就職活動(広島県企業) / 同窓会活動紹介 / 座談会 / 閉会	広島県
沖縄県	都道府県研修事業	11月1日(土)	那覇市:沖縄県青年会館	本県会則改定並びに同窓会活動報告、同窓会結束・親睦など	総会(役員紹介・会則確認、協議会報告、活動計画確認、大学紹介・就職支援報告等)と親睦会(近況報告等)	沖縄県
山梨県	同窓相互研修	11月22日(土)	韮崎市:韮崎市民交流センターニコリ	大学の現況把握並びに同窓生の親睦	依田充代教授の講演、大学・学生の近況、施設紹介、履修、進路説明、親睦・交流	山梨県
長崎県	令和7年度 日本体育大学長崎県同窓会・保護者会共催就職対策事業研修会	11月2日(日)	世田谷区:日本体育大学 東京・世田谷	就職・教員採用試験へ向けた早期取組とモチベーション向上、県人会での親睦深化	挨拶 / 長崎県教員採用試験等説明 / 参加学生自己紹介 / 先輩アドバイス(事務局長・次長)	長崎県

「オリンピック・パラリンピックを中心とした歴史の構築」

— 戦没同窓生名簿(第一弾)作成への道 —

スポーツ文化学部  
福井元 准教授



オリンピック  
スポーツ文化研究所  
関口雄飛 助教



設立10周年を迎えたオリンピックスポーツ文化研究所の決断

オリンピックスポーツ文化研究所は、「我が国のスポーツ文化の深化・発展に務めるとともに、オリンピック・ムーブメントを主導的に推進し、スポーツの『力』を基軸に、国際平和の実現に寄与する」という本学の使命を果たすべく、2015年度に設立されました。

創立134年の歴史を誇る本学は、メダルの獲得数においても、競技者及び大会関係者の派遣数においても、近代オリンピックとともにその歩みを進めてきました。ゆえに、研究所の主要な事業の一つには、「日体大におけるオリンピック・パラリンピックを中心とした歴史の構築」や「スポーツミュージアム」等への発展を検討していくことが掲げられたわけであり、以来、研究所は、プロジェクト1「日体大とオリンピック・パラリンピック」において、戦後の本学オリンピック関係者の歩んだ軌跡を記録に留める活動等に取り組んできました。

一方で、本学オリンピック関係者に関する史資料の収集は、本学における長年の課題であり、研究所設立以来の使命でもありました。こうした背景のもと研究所では、設立10周年を迎えた2024年度のタイミングで今一度その設立目的に立ち返り、依田充代所長によってその指針が示されることとなりました。その結果、全国各地に散在している本学創立以来の歴史の断片を拾い、紡ぎ、そして、次世代の日体ファミリーへと継承していくプロジェクト1をより重点的に推進していく決断がなされたのです。



慰霊碑

プロジェクト1における戦後80年越しの挑戦

折しも、2025年は、第二次世界大戦後80年という節目の年です。先の大戦では、オリンピックを含む多くの同窓生がその尊い命を落としました。いうまでもなく、その時代を知る同窓生は、年々少なくなっています。再び体育・スポーツに汗を流すことが叶わなかった同窓生の無念に向き合わずして、真に現代社会における平和を考えることはできません。当該時期の歴史を検証する取り組みは、戦後、本学の門をくぐれた私たちにしか担い得ません。ウクライナをはじめ、世界各地で戦争や暴力が止まない今だからこそ、戦没同窓生に関する調査・研究は、オリンピックスポーツ文化研究所が担うべき喫緊のプロジェクトと位置付けられています。そしてその中心を担うのが、体育・スポーツ史学を専門とする私たちなのです。

戦没オリンピック・有本彦六氏に関する調査・研究



有本彦六氏

2024年4月には、日本で初めて片手倒立というわざを完成させ、1936年ベルリンオリンピック(体操)に出場し将来を囑望されたものの、戦禍に散ったオリンピック・有本彦六氏に関する調査・研究をスタートしました。有本氏の生涯に関しては、本学唯一の戦没オリンピックとして知られながらも、これまでほとんど明らかになっていませんでした。4月以来、氏の地元・三重県熊野市や親友・松本徳一氏(故人)の地元・岡山県津山市等を訪れ、史資料の発掘を行ってきました。炎天下に氏の関係地を訪ねて回ったり、松本氏のご自宅に伺ったりして半世紀以上眠っていた史資料を発掘した時の感動は、デジタル化がどんなに進んでも、「足で稼ぐ」という史資料収集の基本が決して磨けないことを私たちに再認識させてくれました。

1年半に及ぶ調査にあたっては、特に、有本彦六氏の義娘・一美氏、有本氏の親友・松本徳一氏の御家族様、元東京新聞/中日新聞編集委員・加藤行平様、駅前・木本町まちづくり推進委員会関係者の皆様に多大なる御協力を賜りました。誠にありがとうございました。

少年時代と日本体育会体操学校時代



器械体操部男子部員とともに(最後列左端)

有本氏は、1915年10月に三重県南牟婁郡木本町(現、熊野市)に生まれ、木本小学校で少年時代を過ごしました。卒業後は、木本中学校(現、熊野青藍高等学校)へと進み、「競技部」(陸上部)に入部しました。休憩時には、ハードルの上で倒立をしたり、鉄棒で大車輪を披露したりして周囲を驚かせたといいます。また、人柄は真面目で、下級生からは尊敬され、教師からも信頼される人物だったそうです。競技部部長が日本体育会体操学校の卒業生だった影響もあってか、卒業後の進路として同校を選んだようです。

中学校卒業後、有本氏は、1933年に体操学校へと進み、前年の1932年ロサンゼルスオリンピック体操日本代表・佐々野利彦氏が監督を務める器械体操部に入部しました。体操学校には体育館がなく、昼は屋外、夜は柔道場に器具を運び込んで夜中まで「血の出るような練習」に明け暮れたといいます。

ベルリンオリンピックへの出場と東京オリンピックでの目標

当初は1936年ベルリンオリンピックへの出場を「夢にも思わなかった」ようですが、猛練習によって急成長を遂げ、日本代表選手に選ばれました。故郷・木本町の大歓送会では、涙を流しながらオリンピックに対する決意を語り、町民の期待を一身に背負ってベルリンへと旅立ちました。

オリンピック村での生活は、「人種の差別を離れて楽しかった」「一生忘れる事ができない思い出となる」と振り返っています。日本チームは団体9位に終わりましたが、帰国後は、次回、1940年東京オリンピックでベルリンの雪辱を果たすべく、主体的かつ自主的で、わざの本質を理解した「考える練習」の重要性を説きました。また、「スワロークラブ」(後の日体スワロー)の結成にも携わったとみられます。



ベルリンオリンピック日本代表メンバーとともに(左端)▶

体操学校助教授への就任と戦死、そして、戦後

結局、東京オリンピックでの夢は日中戦争の影響で頓挫してしまいますが、1939年には、体操学校の助教授に就任し、指導者として後進の育成に力を注ぎました。器械体操部の愛弟子には、技術向上にこだわった猛練習を課し、「日体独特の不屈の精神」を育ませました。親友の松本氏は、そんな氏を「スワロークラブの生みの親」と称えています。氏の指導理念は、単に反復練習を行うことではなく「考える練習」を行うことにありました。ただ単にわざの形を真似るのではなく、わざの本質を理解し、自分で工夫して習得した上で圧倒的な練習量を確保していく、というものでした。

有本氏は、1942年に恋愛結婚し長男を授かるなど、教え子、親友、家族に囲まれた幸せな日々を過ごしましたが、そんな日々も長くは続きません。1943年には大日本帝国海軍に召喚され、士官教育を受けるため海軍機雷学校(後に、海軍対潜学校へと改称)への入校を命じられ、厳しい訓練を課されました。戦友によれば、氏は、そんな状況にあっても、「人の悪口は絶対に言わない、いつもにこにこして誰にでも親切にする。極めて謙虚な、実に尊敬すべき人」であったそうです。敗戦の色が濃厚となった1944年12月の出征前、氏は、女子部員に対し「器械体操で教えるべきことは、全部教えた。あとは、女子として、お前自身が女子体操の道を開拓していけ」と体操界の未来を託しました。親友には、「俺が死んだら骨(日体の)体育館に埋めてくれ」と日体愛を語りました。長男の手を引き、長女を身籠って見送りに来た妻には、「日本はこの戦争に負ける」と言い残し、戦地に向かっていったといいます。

そして、1945年4月25日、氏が乗艦していたとみられる掃海艇は、台湾北方の海上で敵潜水艦の攻撃を受けて沈没したとされます。まだ29歳という若さでした。「骨を体育館に」という氏の遺言が叶えられることはありませんでしたが、戦後、氏の精神は、愛弟子たちによって脈々と受け継がれ、「体操ニッポン」の礎となっていたのです。本調査・研究の成果は、学術論文「戦没オリンピック・有本彦六のライフストーリー：体操競技をめぐる指導理念：『日体スワローの魂』の形成とその実践」として公開されました。



器械体操部女子部員、親友の松本氏とともに(1列目左端)



有本氏のご家族への調査・研究報告の様子(10月1日)

戦没同窓生名簿(第一弾)の作成:あらゆる垣根を越えて

有本氏の他にも、平和な世の中において体育・スポーツの魅力を存分に語り合うことが許されなかった戦没同窓生はたくさんいらっしゃいます。私たちは、諸先輩方のお名前を調査し、その生涯をできる限り拾い集めるプロジェクトにチャレンジしたいと考えました。このようにして2025年度からは、戦没同窓生名簿の作成をスタートすることとなったのです。

しかし本学は、戦災によって戦前の資料の多くが焼失しているため、現在、石井隆憲学長の了承を経て、職域(関係部署との協力)や学問領域(体育研究所との協力)の垣根を超えたまさにチームプレーで調査を行っています。また、8月15日には、『朝日新聞』で本プロジェクトに関する記事が掲載され、報道を知った戦没同窓生・伊藤祐寛氏(1935年3月卒)のご家族より貴重な資料をご提供いただきました。



伊藤氏のご家族からの資料提供の様子

日本体育大学が誇る130余年の歴史を次世代へと確実に継承していくため、戦前の本学に関する情報や史資料(写真、日記、名簿、ユニフォームなどのモノ類)をお持ちの場合には、ぜひ、ご連絡をいただきたく存じます。

【宛先:日本体育大学オリンピックスポーツ文化研究所】

氏名、連絡先、お問い合わせ内容を明記の上、下記のいずれかの方法でご連絡ください。

●メール: olyken@nittai.ac.jp ●郵便: 〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1



ご提供いただいた伊藤氏に関する史資料

第62回

# 体育研究発表実演会

【石川県大会】

第62回体育研究発表実演会(石川県大会)は、「TOGETHER + PLUS」をテーマに、令和7年12月6日(土)、いしかわ総合スポーツセンターにて盛大に開催されました。当日は、日体大の学生に加え、石川県内の高校生(日本航空高校(石川))も出演し、多彩な演技が披露されました。

能登半島地震からの復興を願う想いも込められ、スポーツが持つ勇気や元気を届ける場として多くの感動を呼びました。来場者数は3,300名を超え、会場には大きな拍手と一体感が広がりました。本実演会を通じ、スポーツの力が地域へ新たな希望をもたらす機会となりました。



## プログラム

01. オープニング
02. 日本航空高校石川 ウイングダンスカンパニーI
03. 集団行動I
04. トランポリン
05. チアリーダー
06. レッツエクササイズ
07. 少林寺拳法
08. ダンス
09. レスリング
10. 体操
11. 集団行動II
12. 日本航空高校石川 ウイングダンスカンパニーII
13. 荏原体育
14. エッサッサ
15. フィナーレ



# 角界に息づく日体大の系譜

— 大の里関、そして13名の力士たち —



## 5度目の優勝!

横綱 大の里 令和7年9月場所

令和7年9月場所において、大の里関が優勝を果たしました。安定感のある相撲内容と、場所を通して崩れない取り口は、角界内外から高い評価を受けています。大の里関の相撲に共通して見られるのは、基礎を重視した身体の使い方と、状況に左右されない再現性の高さ。一番ごとに修正を重ねながらも、自身の型を貫く姿勢は、長期的な視点で積み重ねてきた稽古の成果といえます。

日本体育大学相撲部で培われた、身体づくりと稽古に向き合う姿勢は、現在の土俵においても確実に息づいています。大の里関の優勝は、個人の成果であると同時に、大学が長年取り組んできた人材育成の一つの到達点でもあります。

## 角界で活躍する、日体大出身力士たち

※番付は令和8年1月場所

四股名	番付	部屋	出身	卒業年	本名
大の里 泰輝	幕内 横綱	二所ノ関	石川県	R5.3	中村 泰輝
阿武魁 一弘	幕内 前頭6枚目	阿武松	モンゴル	R5.3	バトジャルガル チョイジルスレン
欧勝馬 出気	幕内 前頭7枚目	鳴戸	モンゴル	R3.3	プレブスレン デルゲルバヤス
友風 想大	幕内 前頭13枚目	中村	神奈川県	H29.3	南 友太
朝紅龍 琢馬	幕内 前頭15枚目	高砂	大阪府	R3.3	石崎 拓馬
白熊 優太	十両 3枚目	二所ノ関	福島県	R4.3	高橋 優太
朝翠龍 涼馬	十両 7枚目	高砂	大阪府	R5.3	石崎 涼馬
嘉陽 快宗	十両 9枚目	中村	沖縄県	R4.3	嘉陽 快宗
旭海雄 蓮	十両 12枚目	大島	モンゴル	R5.3	シャグダルスレン ドライバートル
宮乃風 陽	幕下 8枚目	中村	沖縄県	R3.3	宮城 陽
東俊隆 勝介	幕下 48枚目	玉ノ井	東京都	R4.3	今関 俊介
和気乃風 栄作	三段目 2枚目	中村	岡山県	H28.3	恒次 栄作
峰洲山 善晴	三段目 18枚目	鳴戸	千葉県	R2.3	鈴木 千晴
古田	三段目 70枚目	二所ノ関	広島県	R5.3	古田 賢悟
雷 徹 親方	(元小結 垣添)	雷	大分県	H13.3	垣添 徹
中村 雅継 親方	(元関脇 嘉風)	中村	大分県	H16.3	大西 雅継
振分 泰成 親方	(十両 妙義龍)	境川	兵庫県	H21.3	宮本 泰成
大山 大輝 親方	(幕下 北勝富士)	八角	埼玉県	H27.3	中村 大輝

一人の横綱や大関だけでなく、継続的に力士を輩出し続けている点は、日本体育大学相撲部の大きな特徴である。

基礎を重視した指導と、競技力だけにとどまらない人材育成は、卒業後も長く角界で活躍する力士を支えている。大の里関の活躍とともに、日体大出身力士たちの歩みは、これからも角界の中で確かな存在感を示していく。

# 中間報告

体育研究所  
プロジェクト研究3

菊池直樹、岡本孝信、横山順一、  
齋藤義信、神谷未花

日本体育大学では、卒業生の健康状態を長期的に追跡し、運動や生活習慣が健康寿命にどのような影響を与えるのかを明らかにする「NITTAI Healthy Longevity Study」を継続的に進めています。本研究は、日体大での競技経験やトレーニング習慣が、中高年期の体力・健康維持にどのように関わるかを明らかにすることを目的としています。

今年度は、2023年度にアンケートにご協力いただいた364名の卒業生のデータを対象に、学生時代の専門競技種目と現在のBMI (体格指数) や体重変化との関係を分析しました(図1)。この成果の一部は、第27回日本運動疫学会において「体育大学出身者における専門種目とBMIの関連:NITTAI Healthy Longevity Study 中間解析」として報告しました。

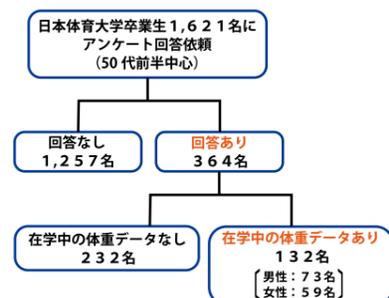


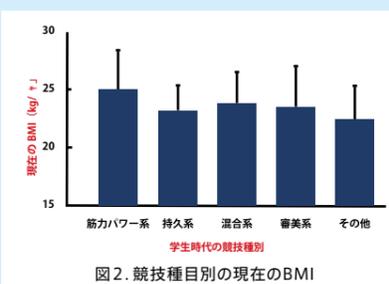
図1. 本研究対象者について  
本研究では、アンケートに回答していただいた方のうち、  
在学中の体重データがある132名を対象としています。

## 競技種目によって現在のBMIは異なる?

今回の分析の結果、学生時代に筋力やパワーを重視する競技(例:ウエイトリフティング、柔道、投擲系競技など)を行っていた方々では、現在のBMIが他の競技群に比べて高い傾向が見られました(図2)。この傾向は男女ともに共通しており、競技特性によって引退後の体重変化が異なる可能性が示唆されました。

一方で、持久系競技(マラソン、陸上長距離、水泳など)に取り組んでいた方々では、現在も比較的BMIが低い傾向にありました。これらの結果は、学生時代の身体特性やトレーニング様式が、中高年期の体型維持に長期的な影響を及ぼしている可能性を示唆しています。

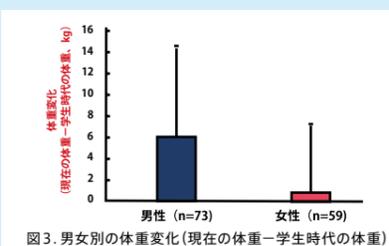
ただし、在学時のBMIデータが全員分揃っているわけではないため、「もともとBMIの高い人が筋力系競技を選択していたのか」までは現時点では明確ではありません。今後は、大学保管データや追加アンケートをもとに、より精緻な分析を行う予定です。



## 卒業後の体重変化にも男女差が!

さらに、2007年度入学者まで大学で実施されていた体力測定データをもとに、当時の体重と現在の体重を比較できた132名(男性73名、女性59名)についても解析を行いました。

その結果、男性では女性に比べて競技引退後の体重増加が大きい傾向が見られました(図3)。これは、社会人生活での活動量の変化などが影響していると考えられます。一方、女性は体重の変化が比較的少ない傾向がありました。



## 今後の展望とお願い

研究の最終的な目的は、「体育」や「スポーツ」の価値を科学的に明らかにし、将来的には一般社会への健康づくりモデルとして発信していくことにあります。NITTAI Healthy Longevity Studyは、卒業生の皆様のご協力に支えられて進められています。アンケート調査や唾液サンプル提供など、今後もご協力をお願いすることがあるかと思いますが、どうぞ引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。また、右ページに研究参加のお願いを掲載させていただいております。ぜひ研究参加へのご協力をお願いいたします。

日本体育大学 体育研究所

## 「体育」や「スポーツ」の持つ価値を発信したい!

本プロジェクトは、日体大卒業生を対象に科学的データを蓄積し、得られたエビデンスをもとに「体育」の持つ価値や健康寿命延伸につながるヒントを世界に発信していくことを目指しています。

日本は世界有数の長寿国ですが、「健康寿命」をいかに延ばすかが重要な課題です。

私たちは、その鍵として「体育」の力が不可欠であると考えています。

体育を通じて、体を動かす楽しさや健康に関する知識を得ること、競技スポーツを通じて社会性や非認知能力を育むことは、個人の健康のみならず、日本社会全体を元気にする力を持っています。

私たちは、日本体育大学の同窓生の研究を通して、「体育」や「スポーツ」の素晴らしさを世界に広めていきます。

体育学部 教授 菊池直樹

## 研究・調査へのご理解とご協力をお願い

### 「在学中と現在の生活・健康についての調査」に関するアンケートへの回答にご協力お願いいたします。

回答に要する時間は約30分程度です。お答えいただいた内容はすべて数字としてまとめ、一人一人の答えが知られるようなことはありません。ご協力いただける方は、以下のQRコードより研究説明書をご覧ください、ご登録をお願いいたします。アンケートの回答は、**Webアンケート**か、**紙面**の回答のどちらかをお選びいただけます。登録後の調査の流れは以下の通りとなります。

スマートフォンで読み取り → 研究説明書の確認・登録 → アンケートの回答方法の選択 → アンケートの回答

紙面またはWeb  
※紙面での回答をご希望の方は、ご登録いただいた住所に質問紙をお送りいたします。

[https://nittaialumni.qualtrics.com/jfe/form/SV\\_e0JwD4Paw2CYIMO](https://nittaialumni.qualtrics.com/jfe/form/SV_e0JwD4Paw2CYIMO)

是非、次の項目についてもご協力ください。  
**こちらの項目は希望された方のみ行います。**  
アンケートの最後に参加可能な項目をお選びください。

**活動量調査**  
活動量計を7日間、腰に装着していただき、日常的な活動量を測定していただきます。

**遺伝子情報**  
専用のキットを用いて、唾液(2mL)からDNAを採取し、遺伝情報の解析をします。

※どちらの項目も、郵送にてお送りいたします。  
**今後、参加してくださった方に対する体力測定の実施も予定しております。**

**この調査は、ある期間にわたって同じ対象者を追跡して行う予定です。継続的にご協力いただけると幸いです。**

## 本プロジェクトへ参加すると...

- 在学時の体力通知表を贈呈**  
データが保存されていた方のみとなります。あらかじめご了承ください。
- 健康に関連する知見や日体大の研究に関する情報を配信**  
不定期で配信いたします。
- 遺伝子検査の解析結果をフィードバック**  
体力特性や体型に関わる遺伝子検査の結果をお返します。

お問い合わせ先

〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 日本体育大学 体育研究所  
電話:03-5706-0992 メールアドレス:longlife@nittai.ac.jp

## 同窓会誌発行協力金について—御礼

「日體人」第13号にてお願いいたしました協力金につきまして、  
これまでに約2,000名の方々からご支援をいただきました。

ここに皆様方のご協力で厚く御礼申し上げます。

ご支援をいただきました方々のお名前は、  
今年度より日本体育大学同窓会のホームページにて記させていただきます。



日本体育大学同窓会  
ホームページURL  
<https://www.alumni-nittai.jp/>



(令和8年2月下旬より閲覧できるようになります)

### 同窓会誌発行協力金のお願い

今回の「日體人」発行にあたり、同窓会活動と母校の近況をお知らせするとともに会員相互の親睦を図るため、本紙をお届けいたします。本誌以降の誌面充実に向けて、引き続き協力金(2,000円)を募りますので、ご協力をお願い申し上げます。

#### 1. 同封の振込用紙にてご協力いただける場合(準会員を除く)

以前、協力金納入にご協力を賜りました方々は、払込票にご住所等の情報を印字、コンビニでのご入金可能なバーコードを表記しております。引き続き、ご協力いただけますと幸いです。

#### 2. クレジットカードにてご協力いただける場合

クレジットカード払いにてご協力いただくことが可能となりました。  
<https://salat.club/fee/nittaidai/>

※旧姓や学籍番号等、ご記載いただけますと助かります。



# NITTAI FAMILY

広がり続ける日體精神



### 日本体育大学荏原高等学校

求めて学び、耐えて鍛え、学んで之を活かす

〒146-8588 東京都大田区池上8-26-1 TEL:03-3759-3291



### 日本体育大学桜華中学校 日本体育大学桜華高等学校

健康・努力・敬愛

〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-5-1 TEL:042-391-4133



### 日本体育大学柏高等学校

健康と信用は最高の宝

〒277-0008 千葉県柏市戸張944 TEL:04-7167-1301



### 浜松日体中学校 浜松日体高等学校

積志力行・清節篤行

〒431-3125 静岡県浜松市中央区半田山三丁目30番1号 TEL:053-434-0632



### 日本体育大学附属高等支援学校

正しく 明るく 仲良く

〒093-0045 北海道網走市大曲1丁目6番地1号 TEL:0152-67-9141



### 日体幼稚園

健康第一主義

〒158-0091 東京都世田谷区中町五丁目10番20号 TEL:03-3701-4450



### 日本体育大学医療専門学校

『温故啓新』  
古きを訪ねて新きを啓く

〒158-0097 東京都世田谷区用賀2-2-7 TEL:03-5717-6161



# 合同企業説明会

対象：2027年3月卒業・修了予定者、  
及び日体大OB / OG

2026

3 / 7 土

日体大生を採用したい企業が参加！  
キャリアアップや転職をお考えの方もぜひご参加ください！

14:00 ~ 16:10

集合場所：東京・世田谷キャンパス(集合教室/2301教室)

(参加方法)

- ①右の二次元コードから事前エントリーを申請
- ②当日、説明会会場へ集合！



## ご寄付のお願い

学校法人日本体育大学は「体育」を通じて世界に貢献します。

ご支援をお考えの皆様へ

学校法人日本体育大学は1891年(明治24年)に創設以来、建学の理念である「體育富強之基」に則り、知育、徳育を育み、健康を増進し、日本・世界の平和と発展に貢献する学生・生徒を育成することを旨として取り組んでまいりました。

現在、本法人は日本体育大学、日本体育大学荏原高等学校、日本体育大学桜華高等学校、日本体育大学柏高等学校、浜松日体高等学校、日本体育大学附属高等支援学校、日本体育大学桜華中学校、浜松日体中学校、日体幼稚園、日本体育大学医療専門学校を設置し、学生・生徒数は約1万人を擁するまでになりました。

当法人及び各設置校にご支援いただいた寄付金は、本法人事業として、スポーツ選手強化・指導者育成や国際交流によるグローバルリーダー育成、教育研究環境の充実・発展や学生・生徒への奨学金などを使用目的とし、その成果を通じ、広く社会に貢献還元いたします。

皆様からのご支援、ご協力が大きな支えとなりますので、ぜひご賛同いただき、多くの方々のご寄付をお願い申し上げます。

### 寄付金お申込み方法

寄付金の詳細は、下記に記載のWebサイトをご覧ください。  
Webサイトでは、手続きに便利な「お申込みフォーム」を提供しています。ぜひご活用ください。

Webサイトへは下記のURLからアクセス可能です。

その他ご不明な点は「寄付金各種お問い合わせ」までご連絡ください。

※各設置校で個別に実施している寄付金事業については、各学校へお問い合わせください。

<https://www.gaku-nittai.ac.jp/donation.html>



### ご寄付に対する税制上の優遇措置

当法人に対するご寄付は、税制上の優遇措置を受けることができます。必要となる書類は、寄付金の入金を確認でき次第、ご送付させていただきます。

### 寄付金に関するお問い合わせ

学校法人日本体育大学 法人事務局 総務部 経理課

〒158-0081東京都世田谷区深沢7-1-1

日本体育大学 東京・世田谷キャンパス内

TEL : 03-3704-5201 FAX : 03-3704-3336

E-mail : kifu@gaku-nittai.ac.jp

# 日體人

にったいじん

【題字】学校法人日本体育大学  
理事長 松浪健四郎

「日體人」を揮毫させていただく光栄にあずかった。日体大は、体育・スポーツの指導者、研究者を育成する日本を代表する単科大学として歴史を積み重ねてきた。

そのキャンパスで学んだ同窓は、エッサツサ、荏原体育を無心に演じてきた同志である。理不尽さに耐えつつ、常に夢を描き、犠牲的精神を発揮する習性を身につけた異色な人類。それが「日體人」だと私は実感している。

この人類は、同窓の絆を財産以上に大切にしている習性をも身にまとう。われらの誇りである。日体大は小さいかもしれぬが、その存在感は計れぬほど大きい。

(2012年11月創刊号より抜粋)